

中心市街地活性化先進地から学ぶ

中心市街地活性化特別委員会は、1月22日と23日の2日間、先進地である岐阜市と静岡県藤枝市を視察しました。委員として上野議員も参加しました。

中心はシティタワー

岐阜市は平成18年8月22日に「岐阜市中心市街地活性化協議会」を設立し、平成19年3月20日に内閣総理大臣に対して「岐阜市中心市街地活性化基本計画」の認定を申請、同年5月28日に認定を受けました。その後2回の変更計画が認定され、活性化に向けて事業を推進しています。

事業の中心は、駅前の「岐阜シティ・タワー43」グランドオープン事業です。07年10月にオープン。1階に商業施設駐車場を設置、3階には、福祉・医療施設、4階には岐阜放送本社が入って「防災・災害報道の拠点」に。6階から14階までは高齢者向け有料賃貸住宅108戸を、15階から42階までは243戸の分譲マンションになっていきます。43階は市直営の展望スペース、民間のレストランが営業展開しています。

岐阜駅周辺地区を中心に、「王宮通り」「柳ヶ瀬地区」という中心市街地を構成する地域全体を巻き込んだイベントを長期間実施し、官民一体となって、中心市街地の商店街全体を巻き込んだの事業であり、活性化を目指す上越市にとっても大変学ばべきところが多いと思われました。



岐阜シティタワーから金華山岐阜城を望む

コンパクトな活性化

事業展開の藤枝市

2日目は静岡県の藤枝市での視察です。藤枝市は「サッカーのまち」と言われています。それだけに印象的だったのは、スポーツ・健康をまちづくりを活用し、健康施設を多く立地して、市内外から多くの人たちが集め賑わいを作り出していることです。



視察先で挨拶する吉田委員長

計画の目標も、「人々が集い、快適・満足に、はつらつとすごせるまち」「結びつきに支えられ、健やかに暮らせるまち」を掲げて、ハードだけではないソフトをまちづくりにも結び付けているのも

議員定数に関する意見を聞く会が始まりました



名立区での市民から意見を聞く会

1月25日(日)、議員定数検討委員会(滝沢逸男委員長)による市民への説明と意見を聞く会が行われました。A班は頸城区と三和区、B班は名立区と直江津地区のそれぞれ2カ所、計4カ所で行われました。

上野議員と樋口議員はB班、平良木議員はA班開催会場に出席。(橋爪議員は吉川区で開かれた「株よしかわ杜氏の郷」説明会に出席しました)

市民からは、「市民の声を守るために議員がいるのだから法定上限の定

数がよい」「上越の面積は広いから定数減では編入された区民の声が届かなくなるのでは」「上越の特徴から中選挙区制がよいのでは」「もっと多くの会場で意見を聞く会を開いてほしい」など活発な意見が出されました。

議会制民主主義の根幹にかかわる問題だけに、あまり性急にならず、市民の声をじっくり聞いてよりよい結果を出す必要があります。

次回開催は2月1日の予定です。

通学バス援助制度

市民懇談会

日時:2月5日(木) 午後7時から
場所:柿崎地区公民館

日本共産党市議団は、通学バス援助制度について市民懇談会を開きます。みなさんのご意見をお聞かせください。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.167 2009年2月1日

連絡先	橋爪 法一	548-3628	(吉川区代石)
	樋口 良子	544-6802	(中門前3)
	上野 公悦	530-2203	(頸城区中柳町)
	平良木 哲也	525-9096	(上中田)

大きな特徴でした。

事業はたくさんありましたが、最も印象に残ったのは、元病院の跡地など、駅周辺の空き地の有効活用。この事業は、市街地再開発事業と結び付けて、市の所有地に民間商業施設(BiVi藤枝)を誘致。3階に収蔵能力30万冊の図書館を整備、また幅広い世代の人々が集い交流できる公共スペースを確保するなど、複合的な機能を確保する内容です。藤枝市は人口13万人の都市でしたが、商店街がイルミネーションで飾られ、回遊性を高めるために百円コミュニティバスを走らせ、シネマコンプレックスなど集客力のある施設を整備しているのが特徴でした。